



「ふるさとを愛し、
生きていく力を育む萩っ子」の育成を目指します

令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜方法が変わります

校長 河村 康郎

今年度、令和7年度埼玉県の公立高等学校入試で大きく変更となったのは、電子出願となったことです。数年前は、紙の願書に必要事項を記入し、受検生は受検する高等学校に出向き、受検票を発行してもらっていました。今年度からは、パソコンやスマートフォン、タブレット端末などから電子出願をし、受検票は各自で印刷する形式に変更されました。

さて、上記のような変更も大きな変更ですが、令和9年度入試（現中学1年生）からはさらに大きな変更点があります。大きく分けて以下の3つの変更点があります。

① 受検生全員が自己評価資料を提出し、受検生全員に面接を実施します。

- ・受検生が提出した自己評価資料に基づき、面接を実施することにより、受検生の意欲や学びに向かう力などを評価します。
- ・自己評価資料に記載した内容は面接を行うときの補助的な資料とし、評価の対象とはなりません。

② 調査書の様式が変わります。

- ・記載内容は、各教科の学習の記録（9教科5段階の評定）を基本とします。

③ 選抜の一部を特色化します。

- ・各高等学校が、自校の方針に基づき実施します。（詳細は未定）

埼玉県教育委員会から示されているパンフレットには、「勉強や部活動、委員会活動、学校行事など力を注いだことや努力したこと、今後取り組んでいこうとしていることなどは、一人一人違います。そのことを**自分の言葉で表現すること**は、自分の中学校生活を振り返り、自分を見つめ直すきっかけにもなります。また、**他の人に伝えること**は、自分の考えを整理することにもつながります。」とあります。このことからわかるように、学力だけではなく、自分の考えを整理し、他者に伝える力が求められています。普段から、自分の考えを持つこと、他者とコミュニケーションをとり、自分の考えを伝えることを意識してほしいと思います。県から出ているパンフレットは右のQRコードからご覧になってください。



☆保護者の皆様へ

おかげさまで、心配された感染症の流行は大事には至らずに済んでおります。これから公立高校入試にチャレンジする生徒も多くいますので、引き続き、ご家族も感染予防にご留意いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

